

第 2 回中間報告

(2014 年 11 月 26 日～2015 年 2 月 25 日)

国際ロータリー第 2710 地区
2014/15 年度グローバル補助金奨学生
University of Birmingham
MSc Global Cooperation and Security
新口慎太郎

派遣ホストクラブ及びカウンセラー
三原ロータリークラブ
出田啓治様

受入ホストクラブ及びカウンセラー
The Rotary Club of Birmingham Breakfast
Ms. Chris Gregory

学業面での成果

前回の中間報告書提出後、秋学期末の試験・課題やクリスマス休暇があり、そして2学期目となる春学期が始まりました。日本で学ぶ学部生時代にはレポートなどの課題を提出しても優、良、可などの評価が成績として返ってくるだけでしたが、イギリスでは提出した課題や行ったプレゼンテーションなどに対し教授や講師が細かなコメントやアドバイスを添えて評価が返ってきます。自分ではレポートを書いている時点ではしっかりと構成を立て、与えられた設問や自分で立てたリサーチ・クエスチョンに答えているつもりでも、いざ評価が返ってきてみると論理が飛躍してしまっている点やさらに掘り下げなければならない点などが多く指摘されており、多くの点で新たな課題や研究テーマを見つけるきっかけにもなりました。返ってきた課題の評価の中には非常に厳しいものもあり、大学院で求められる質の高さや英語で学術的な研究を行うことの難しさを痛感させられました。特に国際関係論の理論を中心に行う授業での課題では、学んだ理論に基づき、またそれを応用して国家間の関係とその展望や可能性を読む者を納得させるような論じ方が出来ておらず、反省する点が多かったです。しかし一方で、実際に起こった民族紛争を分析する授業の課題では良い評価を得ることもできました。イギリス人をはじめとするネイティブの友人と同等の成績を得ることができたことは英語面などで非常に不安が多かった私にとって大きな自信を持つきっかけになり、さらに良いものを書けるようになりたいとも思えるようになりました。短期間で多くの調査を行い、レポートやプレゼンテーションをまとめるのは非常に大変でしたが、今自分が出来ていることと出来ていないことが明確に分かり、次につなげることのできる考査となりました。

1月18日から21日には大学院主催の研修旅行があり、クラスメイトと共にベルギーの首都ブリュッセルに行きました。ブリュッセルには北大西洋条約機構

(NATO)の本部や欧州連合(EU)の主要機関の多くが置かれており、今回の研修旅行の目的はそれらの機関への訪問でした。それぞれの機関でその機関の役割やシステム、現在取り組んでいること、直面している課題などについて職員の方やイギリス代表の方からお話を聞きました。日本はNATOにもEUにも加盟はし

ていませんが、両組織にとって日本は経済的な側面でも安全保障の側面でも非常に重要なパートナーであること実感することができました。また、日本とNATOやEUなどに加盟する他国の国際政治における大きな姿勢の違いも実感させられました。NATOとEUはいずれも欧米を中心とした軍事同盟と地域機構ですが、両組織とも同盟内や地域内にとらわれず、他国やASEANなどの他機構と様々なパートナーシップを結び、また直接的には関わっていない他国で起こっている問題にも積極的に解決策を求め、その実現のために協力しようという姿勢が見えました。グローバル化された現在の世界では国家同士は物理的な距離に関わらず互いに依存しており、またテ



ブリュッセルのEUにて

ロリズムや地球温暖化のような問題は国境を越えて国家やその国民の安全を脅かします。日本は伝統的に他国の問題に積極的に介入することはありません。また緒方貞子さんは日本人は内向的であり、他国での紛争などを「他人事」のように考えがちであると述べられています。戦後 70 年間、日本が戦争を放棄し続けることができたのはこれらに起因する部分があるかもしれない一方で、変化し続ける国際状況の中で今後日本はどのような姿勢をとっていきべきなのかを考えさせられました。アメリカでの同時多発テロ以降、どの国もいつテロの標的になってもおかしくはなく、つい最近もテロ組織「イスラム国」による日本人ジャーナリストの殺害やフランスでのイスラム国に感化された過激派による新聞社襲撃の事件がありました。私にとって今回の研修旅行は、拡大し続けるイスラム国や安倍政権下での集団的自衛権の解釈の変更など、今日本は国際政治における大きなターニング・ポイントを迎えていることを他国の視点から見る非常に貴重な機会となりました。

受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

渡英して以来、私は受入地区でのホストクラブとホストカウンセラーがいない状態で、ロータリーとの関わりも地区大会のような大きなイベントへの参加と地区大会でお会いしたロータリアンの方々との個人的な交流にとどまってしまうていましたが、この度、私にバーミンガムのローターアクトクラブを紹介してくださるなど、以前からお世話になっていたロータリアンのクリスさんにホストカウンセラーになっていただきたいという旨と、クリスさんの所属されている

The Rotary Club of Birmingham

Breakfast にホストクラブの役を請け負っていただきたい旨を個人的に相談したところ快諾していただきました。2月13日には例会に招待していただき、朝食をとりながらロータリアンの皆様と交流をさせていただきました。また急な出席であったのにもかかわらず自己紹介をさせていただき時間やバナー交換の時間を設けていただきました。三原 RC の皆様をご用意くださったお土産の飾り扇子をお渡ししたところ、大変喜んでいただけ、例会の席で毎回飾っていただけるとのことでした。



The Rotary Club of Birmingham Breakfast の

会長のアンジェロさん（左）と

ホストカウンセラーのクリスさん（右）

2月17日には地区大会の際お会いしたピーターさんに、ピーターさんが所属されている **The Rotary Club of Redditch Kingfisher** が毎年バレンタインの時期に開かれているディナーを兼ねた例会に招待していただきました。こちらのロータリークラブの皆様とは地区大会の際に朝食やディナーパーティーで同じテーブルに同席させていただいていたこともあり、ロータリアンの方々に近況報告をさせていただき機会ともなりました。またディナー後には地元広島や私の専攻内容などについてプレゼンテーションをさせていただき時間を設けていただきました。原爆投下直後の広島の写真と現在の広島の様子の写真をお見せしたところ、広島の戦後復興と発展の力強さに

非常に感動されていました。

10月より参加しているローターアクトクラブの活動では、2週間ごとにミーティングを開き、今後の予定や計画している奉仕活動やボランティア活動について話し合いを行っています。またNGOや慈善団体などで活動されている方々をゲストスピーカーとしてお招きし、活動内容やローターアクトクラブとして私に何ができるかなどをお聞きしています。私が参加しているローターアクトクラブはまだ立ち上げられたばかりで会員数も少なく、活動内容は限られてはいますが、逆に今後のクラブ活動に関わってくるクラブ憲章や会則の作成に関わることができるなど、貴重な経験を得ることもできています。



The Rotary Club of Redditch Kingfisher
でのプレゼンテーション

直面した課題、問題点等

直面した問題としては、11月の初旬に行われた受入先である第1060地区の地区大会以降、私とこの地区へのもう一人の奨学生は私たちのカウンセラー代わりをしてくださっていた地区の奨学金担当の方に相談や質問をしたことがありメールを送らせていただいたのですが、返信をいただかず、3か月間全く連絡が取れなくなっていたことがありました。またそのためロータリーとの関わりもロータリアンの方々との個人的な交流を除いて全くなくなっていました。第2710地区R財団委員会の松本様のご助言のもと、2月にクリスさんにホストカウンセラーをお願いし、引き受けていただいたことで現在はこの問題は解決しました。

今後の目標、課題

現在は修士論文の執筆に向けて指導教官とテーマ設定やリサーチ方法などについて話し合っています。修士論文では今まで書いてきたレポートなどの数倍の量を書かなければいけない一方で、よりテーマを狭めて一つ一つのことについて具体的に深く研究しなければなりません。私はまだ修士論文において研究したいテーマを絞り切れておらず、自分の中で漠然としてしまっている部分をどう明確にしていくかが課題となっています。また修士論文に関わるリサーチの行える民間団体やNGOなどでのインターンシップの申し込みを行っています私の所属しているコースでは最低2週間のインターンシップが約束されていますが、希望するNGOや団体に必ずしも受け入れてもらえるとは限りません。また、もし希望する団体に受け入れてもらえた場合には、私は2週間という期間は調査や経験を積むには短すぎると感じており、その点をどのように交渉するかも課題となっています。大学院卒業後の進路も大きな課題となっています。現在、国際協力や平和構築、人道支援などの分野でそれらを「職業」として働くことのできる機会や団体・機関などはたくさんある一方で、それらの多くが採用条件として最低でも数年の関連分野での職業経験を必要としています。職業経験の無い私にとって、そのような中でいかに自分のキャリアをスタートさせるかは非常に難しい課題であり、また良いスタートを切ることは目標でもあります。